

● 東光先生の経

おれも浮世がいやになつたよ

今 東光 著

東光毒舌経

おれも浮世がいやになったよ

検印省略

¥ 420 (〒 70)

昭和41年9月25日 初版発行

著 者

● 今 東 光 ●

発 行 者

● 沖 津 武 ●

印 刷 所

● 合資会社 光 明 社 ●

発 行 所

株式会社 未 央 書 房

東京都新宿区角筈3の148

電話 (342) 8 9 7 7

製本所・佐抜製本

〈落丁・乱丁は本社でお取替えいたします〉

あれも浮世が
束光毒舌経
いめになつたよ

まえがき

毒鼓という言葉は仏教にあるが、毒舌というのは無い。どうやら仏教の世界にこの悪い言葉を持ち込んだのは、僕がはじめてのようだ。

しかしながら、最初から僕は毒舌を売り物にした覚えはない。どこの阿呆が毒舌を売り物にしますか。

ところがマスコミという化物が、僕に毒舌和尚というレッテルを貼ったもんだ。いったんこんなレッテルを貼られると、なかなか剝がすことができないものだ。僕は躍起になってこのレッテルを剝すのにつとめたが、そうすればするほど糊が固くなってしまった。

特に糊をかたくしたのは、参議院社会党の馬鹿議員で、僕の問題を議運委にかけたり電波管理局に圧力をかけたりしたおかげで、糊がコチコチに固まってしまった

のだ。浮世の評価なんてものは、およそこのようなものだろうと諦めかけている。

どうも僕の口癖は「おれも浮世がいやになったよ」というのだそうだが、それだからこそ三十三歳で浮世を捨てて坊主になったが、それでさえ、この浮世という奴はままにならない。何とも憂き世なのである。

そんなボヤキ漫才みたいなのが、毒舌経と銘を打って出版されるのだから驚きだ。浮世の方には何とも申訳ないが、僕の口癖の出る所以ゆえんを知って頂きたい。

（中尊寺僧房にて）

東光毒舌経

おれも浮世がいやになつたよ

目次





● はじまり はじまり ●

でっかい人間の魅力……石原慎太郎

12

甘ったれ精神をたたきつぶせ ● 自信を失った日本人に訴える ● 13

言論圧迫なにするものぞ ● 良識ある社会党議員はよく聞け ● 28

裏切られた善意の共産主義者 ● 中野重治君について ● 34

いたずらのすすめ ● だが度を越せば厳罰にせよ ● 40

既成仏教団をつぶせ ● 腰抜け坊主どもを弾劾する ● 47

思い上がるな『春闘』め ● この国民の敵と戦う ● 53

良民にはピストルを与えよ ● 60

おのれにつくき日教組 ● 本分を忘れた職業団体 ● 66

情けないネ日本人は ● 紀元節論争を斬る ● 73

無法王国ニッポン ● 一隅を照らす運転手 ● 79



●だんだん面白くなってくるよ ● なつかしい人……瀬戸内晴美 88

悪人は悪人をもつて制せ ● 今も健在な牢名主 ● 89

試験地獄にももの申す ● 学校株式会社にカモられるな ● 96

芸術がわからなかった河野大臣 ● 市川崑ちゃんを擁護する ● 102

若い野郎はたるんどるぞ ● すすめたい空手道 ● 108

お先まっくらな日本の風光 ● 自然を破壊する観光業者 ● 114

現代の三悪追放 ● 一に総評、二に腐敗選挙、三に地価の暴騰 ● 121

修学旅行生をしめ出せ ● 国宝は人命と同じだ ● 127

宗教活動をしない寺は没収せよ ● 133

日本一の赤色暴力団 ● 美名にかくれた総評の実力行使 ● 139

汚職議員は死刑にせよ ● 国民の批判精神のなさを嘆く ● 145

幕 間



●ここらでちょっとひと休み ●不遇の人生に耐えた人：寺内大吉 152

おれも浮世がいやになったよ ● 153

負けるな少数派！ ●ほめたい「わからず屋」の良心 ● 159

正札つけて売出せ、乞食議員め ● 164

佐世保をうろつくどぶ鼠 ●ねずみ狂奔する原潜寄港反対デモを行く ● 170

勤勉な労働者に勲章をばら撒け ● 177

ブルドーザーで踏み潰すぞ ●人間の道がわからない奴は覚悟せよ ● 183

観光地を荒らすふとどき者 ●山河破れてなんの国があるぞ ● 189

七生崇るぞ生埋め事故 ●天災じゃない人災だ ● 195

がんばれストリップ ●この社会的事業を支援する ● 201

日本も軍政になりますぞ ●実力行使が生む危険性 ● 208

死刑は公開せよ ● 吉展ちゃん事件に思う ● 214

幕 間



● お茶なと一ぶく ●

慈愛に満ちた人柄……野坂昭如 222

これでいいのか今の餓鬼ども ● 巷にあふれる虎狼の群れ ● 223

日本人の残忍性 ● 国教のない哀れな国民 ● 229

国民は紙屑を拾って歩け ● 今に日本中糞で埋まるぞ ● 235

ふざけた判決理由 ● 安保反対国会乱入事件の判決に驚く ● 241

今こそ日本の一大転換期 ● 大正生まれは性根を据えろ ● 248

隠岐島に残る悪政の烙印 ● 254

大阪の田吾作議員ども ● 260

猿踊りの若僧に人権なし ● 267

脳ミソ抜きの低能議員 ● 中身はただの三千五百円なり ● 273

くたばれ山賊官僚 ● 今に革命が起こるぞ ● 279

はかり知れない人間の運命 ● 牢に入れられた不運な女囚を思う ● 285

漫画大いに結構! ● その辛辣な世相風刺をくみとれ ● 292

日本人としての自覚をもて ● ハメルンの笛吹きにまどわされるな ● 298



● おしまい ●

読後の感想如何

本文挿絵・扉マンガ

清水 崑





幕間

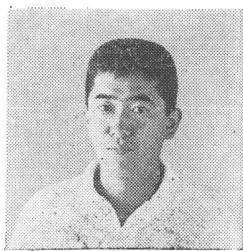
でっかい人間の魅力

石原 慎太郎

東光和尚を眺めていると、私は南国の空を連想する。底抜けに明るく、豪快な積乱雲を起させ、時あらば風を巻き、雷を光らせ、豪雨を放つ。しかし尚、その上はるかにあるものはめくるめくような明るさの青。氏の魅力は、何よりも、己れに徹底して誠実に生きた人間の魅力である。氏の文学における長き沈黙も、またその華々しい復活も、そしてまた、氏の信仰者としての求道も、すべて氏が氏自身の人生を生きた証しである。

世に鳴る氏の毒舌は、氏の強烈な個性の一つの表現であって、言うべきことも言わず、怒るべきことに怒ることなく、徒らに己れを殺して生きることしかできぬ現代の人間たちにとって、熱帯に過ぎる夕立ちのような爽やかさに感じられる。わが敬愛する和尚と話し合っている、私は、強烈な自我ある人間の土性っ骨の頼もしさを感じて快い。昨今、自ら芸術家と称し、宗教家と名乗る人間たちの中に、

背骨もなく、頭脳も精神も軟体動物のように徒らに迎合のみのいかかわしき手合いを多く見るが、かかる現況のうちにあって、東光和尚の存在は、それらの人間たちが世に示す恥を一掃して余りある。徒らな反骨、徒らな暴言は容易だが、その言動の裏に人間への、社会への、強固な理念を裏打ちした反骨は真の男子にしか可能ではない。私が東光大僧正に、年令を超えて男としての共感を感じる由縁もそこにある。



甘ったれ精神をたたきつぶせ

● 自信を失った日本人へ訴える ●

東北六県を一つにまとめろ

日本人の甘ったれ精神について言おうとすると、まずその前に、この島国のせせこましさというやつが気になってくるわけだ。

先日、仙台の河北新報からわざわざこの河内^{かわち}までインタビューに来て、僕に意見を問うた。そのときもその記者にしゃべったことだが、だいたい東北六県なんぞというけれども、そんなケチな区切りを設けないで、いっそ一県に統一しちゃって、ひとりの知事ですますことにすればいいじゃないか。それが六県それぞれに割拠^{かつきよ}して、セクシヨナリズムみたいなことをやっているから、いろんな点で有無相通じがなくなるし、だいいち道路がちつともよくならんのだ。日本のチベットなんて言われるのも当り前だな、そう言っておいたら、そいつを新聞の一面にデカデカと書き立てたもんだ。

そのため反応おおいにありで、ただちに県会議員が電話をかけてくるし、その後、青森県知事に会ったら「ああいう説が出るようでは、もう私は出馬しません……」などというようなことで、なかなか恐慌をきたしたものだ。

僕が今度おさまった中尊寺ちゆうそんじはその東北の岩手県にあるが、あそこなんか四国に匹敵するぐらいの広さだ。それでいて、なんのかの不足をかこって、貧乏している。だから一県にまとめちゃって強力な政治をするようにしなきゃあ、いつまでたたってうだつが上がるものじゃない。

これは一例だが、バスで宮城県から山形県へ向って奥羽山脈頂上の県境を越えようとするとき、その頂上で乗客はおろされる。そうして山形県側から来たバスにのりかえさせられるのだ。つまり、両県とも縄張りをもっていて、お互にその外に出られないっていうバカげたことをしているわけだ。そんなことでどうして東北の発展ができるというのだ。県当局がその縄張りをなぜ打破できないのか。バス会社もまた、かいいふうないではないか。ちゃんと協定すればいいのだ。

話はメキシコに飛ぶが、なぜメキシコが発展したかというところ、あそこは国境があれどもなきがごとしで、道路の寸法なんかもアメリカのに合わせてつくられている。だからホリデーというと、ヤンキーたちがドッとばかりにメキシコへやって

くる。いまメキシコは世界第一の観光ブームだ。

パンアメリカン道路というのができていて、そこをトレーラーバスみたいなのに一家眷族がのっかってくる。そういうのがみんな国境通過のたびにメキシコ側にカネをばらまいていくわけだ。そんな調子だからメキシコの税金は安くて、国民が喜ぶのだ。

またその上りで、道路もアメリカと寸法の合うものをどしどしつくっていく。じつさい、あそこの道路は、なめてもいいくらいに平坦そのものだ。幅も広い。

それにくらべて日本となると、鼻クソみたいに小っぱけなくせに、何県の何郡の何村のと、ケチなことばかり言っている。だからいつまでたっても伸びるべきところが伸びない。むしろ伸びないようにお互に首を締め合って暮しているってわけだ。バカもいい加減にしろと言いたくなる。

愚劣な外地の県人会

こせつした日本人という点では、外地の日本人会なるものが、また島国根性ムキ出した。ハワイでも同様に、僕は南米に行ってそれをつぶさに感じ取った。

現地には行った先き先きで、いわゆる日本人会なるものがある。その日本人会か